

## 1 研究の目的

本研究の目的は、生涯学習プラットフォームが積極的に活用されるための設計要件を明らかにし、今後の構築の検討に資するものである。生涯学習プラットフォームは、2016年の中央教育審議会答申で①多様な学習機会の提供、②学習や活動成果の記録と社会的な証明、③学習コミュニティの形成を通じた学習成果の活用などの役割と機能が示され、構築に向けた検討を求めている。

## 2 焦点化した課題

生涯学習が個人の自発性に委ねられていること、成人期の学習の中で社会生活の経験から学ぶインフォーマルな学習が多くを占めるとされていることから、実際に生涯学習プラットフォームが効果的に活用されるには、「活用を始める動機付けと主体的な活用をどのように図るか」、「社会生活に密着した活用を図るにはインフォーマルな学習にどのように対応できるのか」の2点に課題を焦点化した。その方策をふまえて生涯学習プラットフォームの設計要件を考察することとした。

## 3 研究の方法

本研究は、市民の学習プラットフォームとして開発されインターネット市民塾の枠組みの上で行った。これを生涯学習プラットフォームのプロトモデルとし、18年間にわたる市民の自発的な活用の記録を実証的に評価することから行った。その視点は、「自発的に参加する市民・学習者の視点」や、「メンター等の人的支援の視点」、「IT（情報通信技術）の活用と地域の産学官で組織的に運営する仕組みや枠組み」の3点とした。この視点に基づき、「市民による学習コミュニティ形成のモチベーション」、「市民による学習成果活用の課題と支援」など6つの研究を設定し、生涯学習プラットフォームの設計要件を導き出した。

## 4 研究の意義

本研究の成果は、生涯学習プラットフォームの設計要件を、その構築に先立って実証的に示したことにある。これは、プロトモデルとして位置づけたインターネット市民塾の上で、18年間にわたる市民の活用やその間の実証的研究の成果を根拠としたものである。

本研究では、その過程でプロトタイプの持つ実践的效果を詳細に分析している。その分析からは、市民を主体とする学習や学習成果を活用した社会的活動を促すために不可欠な機能も明らかになった。すなわち、①学習への参加や学習成果の活用に向けた内発的動機づけの存在とそれを促す機能、②インフォーマルな学習を組織的に支援する枠組みと人的支援、③地域の活性化に寄与する実践コミュニティの形成、④プラットフォームとしてのこれらの再現性などである。また、これらの機能の実践効果を決定づけているのが、「市民講師制度」であることもあらためて実証した。

一人でも多くの市民が経験やノウハウを持ち寄る「知の足し算（プラス・サム）」が生まれ、それぞれの自己成長とともに、地域づくりに市民が叡智を出し合う社会が望まれる。本研究がこのような地域づくりに生かされ、発展的に広がっていく出発点になると考える。